

2年2組

 ハッピーとのくらし  
 ～みんなが しあわせに くらせるために～


## 「新しい小屋を気に入ってくれるといいな」

11月7日(金)に須坂市動物園へ行ってきました。須坂市動物園へ行った振り返りで、次に知りたいことや調べたいことを共有していくと、「冬になって寒くなるけど今の小屋で過ごせるのかを調べたい」「冬支度をしたい」と、子どもたちは「冬支度に必要なことを調べたい」と願っていました。

そんな中、11月13日(木)の朝、子どもたちが学校へ来るなり、「先生、山羊さん鼻血が出ているよ」と教えてくれました。よく見ると鼻の下のところを少し切れていました。佐藤獣医へ相談したところ、「人や小屋に衝突して切れてしまったのではないか」とのことでした。佐藤獣医の言葉を子どもたちに伝えると、「小屋に危ないところはないか確かめたい」と、怪我をしてしまった山羊さんを目の当たりにした子どもたちの切実な願いが沸き上がっていきました。そこで、小屋について「これから必要なことは何か」調べることにしました。調べるときの視点は2つです。1つは、「冬支度で必要なことを具体的に調べること」です。もう1つは、「山羊さんにとって今の小屋で危険なところはないかを見つけること」です。

冬支度について調べる中で子どもたちは、「寒いから小屋に藁を敷いた方がよい」「雪が降ったら冷たいからかわいそうだから屋根を増やしてあげたい」「寒いから壁の板を増やした方がよい」など、少しずつ冬支度に必要なことが具体的にになっていきます。Aさんは、「小屋を実際見ながら危険なところはないか確かめたい」と言って、山羊さんノートを手にもって小屋の隅々をくまなく確かめる姿がありました。柱を触りながら、Aさんは「この柱はしっかりしているけど、こっちの柱は少しぐらぐらするから柱を増やしてもいいかも」と確かめて、つぶやきながら、山羊さんノートに記録していきます。授業が終わるころAさんの山羊ノートには、これから冬支度で必要なことや小屋の危険な個所についての記録がびっしりと書かれていました。



小屋を触りながら山羊さんにとって危険な箇所はないか確認している様子

小屋の冬支度として必要なことをクラス全体で確認すると、「床」「壁」「柵」「屋根」「餌」というキーワードが出てきました。そこで、「床」「壁」「柵」「屋根」「餌」の5つのチームに分かれて山羊さんの冬支度を行っていくことにしました。これまでは、皆で同じ作業を順番に進めていくことが中心でしたが、今回は一人ひとりがどの作業を行うか決めて、作業ごとチームになって、作業の計画から自分たちで考えるということに挑戦しました。「何を」「どのように」作業を進めたらよいか計画の段階からチームごと話し合っていて決めていきました。計画や設計図などを話し合っていて決まったことをプリントにチームごとまとめました。自分たちで作った計画に沿って、作業を進めました。



チームで話し合い、計画を立てている様子

「床」チームでは、「山羊さんの小屋に藁を敷く」ことを行いました。チームで協力して1年生の時に作った秘密基地内にある藁を

一輪車いっぱいに乗せて運びました。運んだ藁を見ると露で色が変わってしまった藁も一部ありました。そこで、変色してしまった藁を取り除くことを行いました。取り除き終わったところで、きれいな藁を小屋いっぱいにはきました。この日の作業を終えて、翌朝、子どもたちが学校へ来てみると、一部の藁が小屋からはみ出していました。山羊さんが出入りしたことで一部の藁が小屋からはみ出してしまったのです。その様子を観て、「床」チームのBさんが藁がはみ出ないように「小屋に1枚板を張る」というアイデアを提案しました。そこで、この日の「床」チームの作業は、「板の長さを測り、板を切って、小屋に貼り付ける」という作業をすることになりました。「床」チームだけでなく、それぞれのチームで前日の作業を振り返って、「うまくいったこと」「うまくいかなかったこと」をお互いに出し合っ、「今日やる作業」を決めだして計画を修正して、その日行う作業を決めてから作業に取り掛かりました。



藁がこぼれないように小屋に板を張る様子

頭で考えていた計画も実際にやってみると様々な問いや願いが生まれました。「思ったより板の枚数が切れなかったからどうしたらよいのか」「1枚の板を切って2枚にして、全部で8枚の板にしたいけど、何枚板が必要なのか」等、各チームで実際に作業をやってみることで、見えてくるものがありました。

「床」チームの板を張る様子を観ているとCさんは「先生、これBさんのアイデアなんだよ。ここに板を張ったら藁がこぼれなくなるんじゃないかなと思って」と語る姿は実に嬉しそうでした。板を張ってみて、きっとこれから山羊さんが小屋を出入りする様子や藁の落ち具合によって、新たな問いや願いが生まれていき、各チームで試行錯誤を繰り返しながら、更に作業を進めていくことでしょう。そして、試行錯誤の中に新たな気付きや問いや願いが生まれていくことでしょう。試行錯誤によって生まれていく気付きの質の高まりや子どもたちの問いや願いを見つめながら、今後も子どもたちと共に小屋の冬支度、山羊さんにとって危険のない小屋づくりを進めていきたいです。

変化していく小屋への期待の高まりを感じているようで子どもたちは、「少し変わっただけなのに全然違って見える」「山羊さん新しい小屋を気に入ってくれるといいな」と語って今いた。山羊さんは、広くなった小屋にいつもより心地よさそうに歩き回っているように感じます。



広くなった小屋の様子

## 「よろしくね ハッピー」

11月28日(金)、ついに山羊さんの名前が決まりました。名前は「ハッピー」です。名前の由来は、学級通信「ハッピーえんど!」から来ており、幸せになってほしいという願いも込められています。山羊である「ハッピー」にとっての幸せ、私たち2年2組にとっての幸せを願ってつけられた名前です。もしかすると、私たちの幸せから、さらに広がってより多くの人の幸せを願う名前となっていく可能性も感じています。名前が決まると、子どもたちは小屋へ駆け寄り、「よろしくね ハッピー」「ハッピー よろしく」と声をかけていました。「山羊さん」から「ハッピー」となって、山羊さんと出会い直しをしているように感じました。

12月4日(木)たくさん雪が降ったので朝、雪遊びをしました。教室へ戻る時「ハッピー初めての雪はどうだった?」と声を掛ける子どもたちの姿が素敵だなと感じました。

